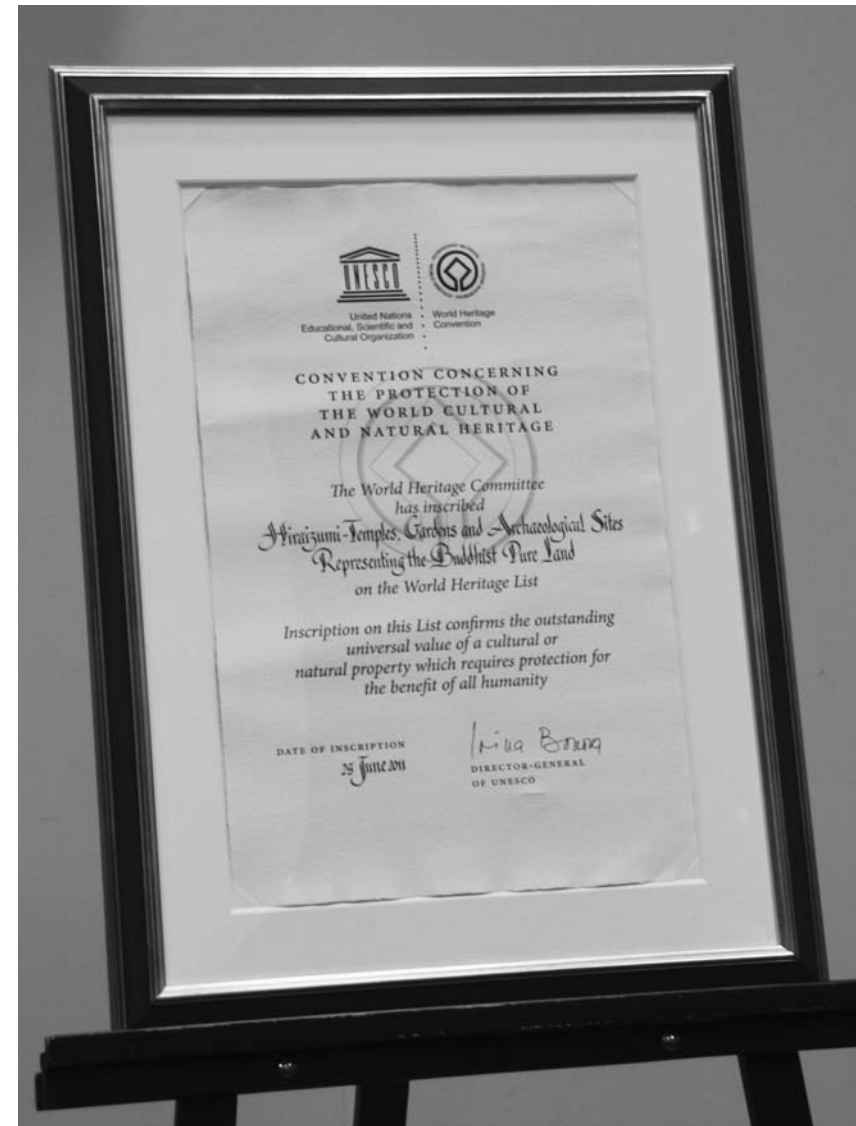


世界遺産認定書授与式

登録はゴールではなくスタート



1. 認定書を手にする関係者。(写真左から中尊寺菅野執事長、浜田外務政務官、森文部科学副大臣、ポコバ事務局長、達増県知事、菅原町長、毛越寺藤里執事長)
2. 式典終了後、記者会見に応じるポコバ事務局長
3. 厳粛の中行われた認定書授与式



昨年6月に国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界遺産に登録された平泉の文化遺産「平泉―仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群―」の世界遺産認定書授与式が2月13日、文化遺産センターで挙行されました。

授与式にはユネスコからイリーナ・ポコバ事務局長ほか海外専門家約30人、国内からは森ゆうこ文部科学副大臣、浜田和幸外務大臣政務官をはじめ、国内専門家や地元関係者など約150人が出席して行われました。

世界遺産の保護に全力

主催者を代表して森文部科学副大臣と浜田外務政務官があいさつを行いました。

森副大臣は「貴重な遺産・文化財を大切に守り伝えてきた地元関係者の尽力に敬意を表します。全世界の共通の財産として後世に確実に継承していかなければならない。確実に保存するとともにその周辺環境を望ましいものに整え、地域のまちづくりへと適切に生かしていく取り組みが望まれます。わが国の世界遺産の保護に全力を尽くす」と国内の世界遺産の保全に努めていくことを誓いました。

次の時代に歴史をつなぐ

続いてあいさつした浜田外務政務官は「世界遺産登録は地域の人たちが大切に育ってきた思いを忘れず、次の時代に歴史をつなぐ第1歩である。極楽浄土、地上の楽園をつくる、その発想で生まれたのが平泉のまちであり、今その思いが、多くの人たちに支えられて、復興にもつながっている」と平泉の価値を述べ、その後ユネスコのポコバ事務局長から達増県知事と菅原町長に世界遺産認定書が手渡されました。

特別なセレモニー

今回のようにユネスコの事務局長が直接登録地に向き、認定書を授与するのは極めてまれなことであり、今回のセレモニーはとてつもなく特別なものでした。

授与式終了後、記者会見を行ったポコバ事務局長。会見ではこれまでの世界における日本の役割をたたえ、そして今回、震災に見舞われたこの地域に対してユネスコの連帯の気持ちを示しました。

平泉の文化遺産については「素晴らしい美しさを持っている。浄土思想を誇りに思っている」と語っていました。